

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度 技術情報第16号（ファレノプシス株枯病）について（送付）

ファレノプシス株枯病について下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/kagoshima>）にも掲載しています。

令和5年度 技術情報第16号

県内のファレノプシス施設栽培において株枯病が発生しました。病原菌は資材等に付着し、発生を拡大させる要因となりますので、植え込み資材の再利用は避けてください。

1 作物名 ファレノプシス（ラン科）

2 対象病害虫 ファレノプシス株枯病（農林水産省 門司植物防疫所同定）

3 発生状況と病徴

- 令和5年9月に県内の一部のファレノプシス施設栽培において新葉に黒い斑点および黄化症状（図1）が、ほ場の約50%の株で認められた。本病は昭和63年に沖縄県、その後栃木県、熊本県および宮崎県で既に確認されており、本県では初確認となる。
- 発病株では、まず基部が黒褐色に変色し始め（図2）、次第に葉が黄化し、落葉する症状が認められる。病斑部には赤褐色の子のう殻が認められ（図3）、多湿時には白色の菌糸（図2）も認められる。急激に株が枯死することはない。

4 防除対策

- 発病株は見つけ次第、ほ場外に持ち出し、適切に処分を行う。
- 発病株の植え込み資材はほ場外で適切に処分し、再利用は避ける。
- 栽培管理に使用する器具などは消毒して使用する。



図1 発病が確認されたファレノプシス



図2 基部での黒褐色の変色と菌糸



図3 病斑部表面に形成された子のう殻



図4 *Neocosmospora solani*
(無性世代: *Fusarium solani*)
子のう胞子および子のう
(門司植物防疫所原図提供, 無断転載を禁ず)